



北海道子ども読書応援団ニュース

ゆめ*よみ

北海道教育庁生涯学習推進局
社会教育課地学協働推進係

TEL : 011-204-5744

FAX : 011-232-2236

「北海道立図書館で 電子書籍を導入しました」

北海道立図書館では、令和4年4月から電子図書館の利用を開始します。

北海道立図書館の利用者カードがあれば、お持ちのパソコンやスマートフォン、タブレットなどから、いつでも、どこからでも利用することができます。

導入した電子書籍には、教育や健康・医療等の実用書や教養書、アイヌの人たちの歴史・文化やSDGs、防災関係等の書籍など約3000冊をそろえています。

右のQRコードから北海道立図書館の利用登録の申し込みができますので、ご活用ください。

2022年4月から

電子図書館、始まります。

電子図書館のご利用には、北海道立図書館の利用者カードが必要です！



【北海道立図書館のホームページから】

各地の子ども読書応援団の取組紹介

「子どもたちの笑顔がモチベーション」 童話サークル「ぴいたあぱん」(八雲町)

童話サークル「ぴいたあぱん」は、昭和50年に八雲町立図書館の司書の呼びかけをきっかけにスタートした団体です。現在は6名の会員が、毎月1回八雲町立図書館で開催される「おたのしみどうわの日」で、子どもたちに楽しいひとときを届けています。

「おたのしみどうわの日」では、絵本や紙芝居の読み聞かせだけでなく、エプロンシアターやパネルシアター、誕生月の参加者へのお祝い、クリスマスなどの季節のイベントなど、様々な工夫を凝らして子どもたちを迎えています。

コロナ禍以前は保育園や子育てサークル、学校や学童保育所など様々な場所で活動し、地域に根ざした活動が評価され、平成30年度には北海道読書推進運動協議会主催優良読書グループ北海道表彰本賞を受賞しました。

代表の永井さんは「現在はコロナ禍のため、図書館での「おたのしみどうわの日」以外の活動の見合わせが続いていますが、コロナが落ち着いたら、また様々な施設や団体の行事で活動したい。子どもだけでなく、高齢者対象の読み聞かせなども、依頼があればチャレンジしていきたい。」と意気込んでいます。また、「参加してくれる子どもも、私たちも、一緒に楽しめる活動を目標にしています。「おたのしみどうわの日」の活動は、今後ずっと続けていきたい。子どもたちの笑顔が最大のモチベーションになっています。」と、今後の抱負を語っていました。



【八雲町立図書館「おたのしみどうわの日」の活動】

「子どもたちの笑顔が活動源！」

読み聞かせサークル「おはなしのびっ子」(厚真町)

読み聞かせサークル「おはなしのびっ子」は、平成5年に地域の女性の方々が中心となって結成した団体です。当時から図書室等で読み聞かせを定期的を実施しています。

現在、会員は10名在籍しており、月1回厚真町青少年センター図書室のほか、町内に2カ所ある子育て支援センターでの読み聞かせを実施しています。今年で2年目となる子育て支援センターでの読み聞かせは、普段よりもアットホームな雰囲気になることから、子どもたちに会えるのを何よりの楽しみにしています。

今年初めて開催した「つくってきかせてみんなのおはなし」のイベントでは、読み聞かせや人形劇のほかに、参加した親子が一緒に楽しめるように、読み聞かせの小道具をつくる体験活動も取り入れて工夫しました。子どもたちは、のびのびとイラストに自由に色を塗り、親子だけのオリジナル作品をつくることができました。

会員の方々は「これからも、子どもたちにたくさんの本を届け、楽しい本を伝えたい」「子どもたちの笑顔を活動の原動力に読書活動を続けていきたい」と今後の活動への思いを語っていました。



【サークルによる人形劇】



【親子で読み聞かせの小道具作り体験】

「絵本を通じて思いやりや優しい心を伝えたい」

読み聞かせグループ ピノキオの会 (せたな町)

「読み聞かせグループ ピノキオの会」は、代表の杉浦幸子さんが保育所を退職後に「子どもたちに何かしてあげたい。」という思いから、自ら学校へ出向いて昼休みに読み聞かせを行ったことが、会発足のきっかけとなりました。その後、杉浦さんの活動に賛同者が集まり、平成14年から正式に組織として活動を始めるに至り、現在は10名の会員で活動しています。

情報センターにおいて、月に1度の読み聞かせ会を定例活動とし、町内の学校における読み聞かせ活動やブックフェスティバルの運営にも協力しているほか、町教委が主催する読書活動推進事業「図書館deカフェ」や家庭教育支援事業「親子deよりみち広場」などの運営に協力するなど、他の団体とも連携しながら地域における読書活動の推進に力を注いでいます。

そのような地域に根ざした活動が高く評価され、平成25年度には、優良読書グループ北海道表彰本賞、同年、ほっかいどう子育て応援大賞、同年、せたな町教育功労賞、平成29年度には、内閣府によるチャイルド・ユースサポート章を受賞しています。

これからの活動について、杉浦さんは、「子どもたちに絵本を通じて、思いやりや優しい心を伝えるため、新しいことにもチャレンジしながら情熱をもって活動を続けていきたい。」と、今後の目標を語ってくれました。



【人形劇の様子 (図書館 de お楽しみ会)】

「読み聞かせを通じて、羽幌町の子どもたちに豊かな心を育みたい！」 あざらしおはなし会（羽幌町）

「あざらしおはなし会」は、平成元年発足以来32年にわたり、公民館図書室を拠点として読み聞かせ活動に取り組んできました。現在の会員は6名で、手作りの大型紙芝居やパネルシアターなどを使った読み聞かせをはじめ、語りや童謡、家庭で親子が一緒にできる遊びなど幅広い活動を行っています。

また本会は長年の取組が評価され、平成21年に優良読書グループ北海道表彰、平成28年には優良読書グループ全国表彰を受賞しました。受賞を契機に、町内の幼稚園や保育園、高齢者施設から「ぜひ当施設でも読み聞かせをしてほしい」と声がかかるようになり、現在はこれらの施設への出前活動に加え、町内小学校の朝読書運動で週1回読み聞かせボランティアとして活動を続けています。

さらに町教育委員会が主催するブックスタート事業や町民芸術祭にも積極的に協力されています。

本会の対象の広がりにより、会員は年齢層に応じた読み聞かせの工夫など、日々研鑽しながら活動を続けられ、羽幌町の読書活動に欠かせない存在となっています。

梅原会長は「地域に根ざした団体として、会員のスキルアップを図りながら、子どもたちに豊かな心を育むことができるよう今後も貢献していきたい。」と語ってくれました。



【出前おはなし会の様子】

「子どもの笑顔が私たちの原動力」

よむよむ☆ママさん隊（標津町）

「よむよむ☆ママさん隊」は、平成12年4月から我が子が通う学校の子どもたちに、本に親しむことができる環境を作りたいという思いから、標津小学校の保護者たちが会を設立させました。

小学校で毎週行われている朝の読み聞かせ会や、月に一度実施されている図書室ふれあいデーで、読み聞かせを行っています。また、中学校でも月に1回程度、各クラスで読み聞かせも行っています。

本会では読み聞かせのほかに、町から依頼を受け、津波などの災害に関わる紙芝居を手作りしました。

さらにその紙芝居を学校の避難訓練の時期に合わせ、児童に読み聞かせを行い、子どもの防災意識を高めることに協力しています。

これらの取組が評価され、平成26年度に優良読書グループ北海道表彰本賞を受賞しました。

会の皆さんは、「卒業する中学生の一人ひとりからお礼の手紙をもらい感激した。読み聞かせをした子どもが、大きくなり、自分の子どもに読み聞かせをしてくれたら、とても嬉しい。」「子どもが絵本に夢中になっている表情がとても魅力的。それを原動力にこれからも読書活動を続けていきたい。」と今後の抱負を語っていました。



【読み聞かせの様子】

「本と子どもたちをつなぐ架け橋として」

大川小学校ブックママ（余市町）

「大川小学校ブックママ」は、平成17年、余市町立大川小学校からの呼びかけで、1人の保護者の活動から始まりました。

現在では、17名のボランティアが、月に2回ほどの余市町立大川小学校の全学級での読み聞かせや、余市町立旭中学校での読み聞かせ、その他、大川小学校図書館の装飾、掲示物作成、書架整理、図書修理作業、新刊書のカバーがけ等をとおして、子どもたちの読書活動の支援を行っています。

今年度は中止となりましたが、新たな会員募集のため小学校の給食試食会での大川小ブックママの活動PRや、年2回のお便りで、他の保護者の方に子どもたちの読書活動について啓発を行っています。

また、「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」にボランティア団体として登録し、イオンからの寄付で大型絵本などを購入し、学校に寄贈しています。

代表の岡田さんは、「このような活動をとおして、子どもたちが図書館に足を運び、本に興味をもってくれるようになることを願って、活動を続けていきます。」と、抱負を話してくれました。



【大川小学校でのブックトーク】



【読書月間の飾り付け】

「夏の夜にこわ〜いおはなし会」

おはなしポケット（津別町）

平成19年に公民館講座の参加者が集まり「おはなしポケット」を結成しました。現在は6名の会員が活動しています。

公民館図書室での月に一度の「おはなし会」を主な活動とし、「図書室まつり」などのイベントへの協力、高齢者施設に出向いての読み聞かせも行っています。

感染症拡大の影響により活動ができない時期もありましたが、工夫しながら活動に取り組んでいます。

8月には津別町教育委員会の社会教育事業「アソビバ!つべつ」の一環として実施された「夜のおはなし会」の事業に協力しました。「おはなしポケット」は読み聞かせのプログラムを担当し、選本や練習など子どもたちに楽しんでもらえるよう準備をしました。

当日は小学生とその保護者9名が参加し、暗い部屋で怪談を聞いたあとに、夜の「公民館たんけん」に挑戦しました。二人一組になって暗号を解きながら、懐中電灯を片手に公民館を巡り、夏の夜を楽しみました。

参加した子どもたちからは「楽しかった」「もっと怖い話でも大丈夫だった」「またやりたい」などの感想が聞かれ、大変好評でした。



【「図書室まつり」の様子】



【「夜のおはなし会」の様子】